

大腸内視鏡検査はやらなくちゃいけないだろうと思っていた。前回の検査からすでに4年半が経っている。知り合いに大腸がんで手術し、元気にされている方が多くいらっしやる。彼らとはとにかく早期発見の方々だ。

仕事の都合などを考えて、3月27日にわたしが勤務している福角病院で大腸内視鏡検査を予約してもらった。終わらないと気分は落ち着かない。大腸がんだらどうしよう。腹腔鏡でできるだろうか。開腹しないとダメだろうか。やるとすればいつにするか。何日くらい入院すればよいのか。悪いことばかり考えてしまう。

ある朝、大腸内視鏡検査をしてもらう外科医にあったとき、「回盲部で症状があるから憩室炎でしょう。悪いものなら症状がないでしょう。急性期じゃないけど前から炎症があったんでしょね」。

この言葉で気分はずいぶん楽になった。やっぱり医者の一ことは大きく患者さんに影響すると改めて感じた。

それでも気になって、大腸がんで手術したことのあるナースに尋ねた。

「がんが見つかったのはどういったことで？」

「便潜血がプラスだったから。症状はまったくなかったんです」

がんの中でも大腸がんは5年生存率・10年生存率が高く、早く見つかれば治る病気と思っている。要するに早く見つけることができれば完治する率が高い。便潜血がマイナスの大腸がんは少ない。しかし、これは進行がんに限ったことだ。確かに進行がんの90%は便潜血プラスだが、早期がんでは便潜血プラスは50%。結局、大腸がんが心配なら大腸内視鏡検査しかない現状だ。

先輩医師夫婦で毎年、頭部MRIと胃内視鏡検査と大腸内視鏡検査を受けている方がいるが、すごいなあ、えらいなあと思う。

検査の前々日、外来のナースにクリアスルー3食セットをいただいた。下剤2種類も処方された。

検査前日、朝食にクリアスルーセットの朝食「鶏とたまごの雑炊」を電子レンジでチンしていただいた。味はまずまず合格点。腹に力が入らない感じで、もう少し食べたいが、がまんがまん。

昼食は勤務先で「肉じゃが」と「鮭がゆ」のレトルトパックを電子レンジでチンしていただく。コーヒーやお茶などの飲み物は飲んでよく、むしろできるだけ水分は摂ったほうがよろしい。

それにしても食べたいものを食べただけ食べられる普通の日々がこれほどありがたいことだと改めて感じた。体調を崩さないと健康のありがたさがわからない。病院へ勤めていてもそうなんだから一般の人に健康に感謝と言ってもぴんと来ないのは当たり前かも。

夕食は「チキンクリーム煮」と「クラッカー」。うれしいことにクラッカーは5枚もあった。ぺろりと平らげる。午後7時過ぎだった。総じてクリアスルーセットは淡白な味だが、まずまずであった。アルコール以外の水分は飲んで差し支えないので、しっかりコーヒーを飲む。起きていると腹がすきそうなので、早々とベッドに入ることにする。小説を読んでいるとすぐに眠くなってきた。

明日のことが気にはなってもすぐ寝付けるもんだと能天気な性格にはありがたいと今更ながら思った。

ここで忘れていた下剤を2種類服用した。

検査当日、早々と5時半に目が覚める。早く行っても長く待たされるだけなので、できるだけゆっくり行こうと思うが・・・。朝ごはんも食べることができないし、仕方がないから今日と明日のごみ出しの用意をして、6時50分に我が家を出る。

朝早いで車が少なく、7時10分に病院へ到着。早速、外来へ行き、用意されているマグコロール（クエン酸マグネシウム）を水で溶かして1800mlとして、コップについでまず200mlを飲む（7時37分）。続いてもう1杯。するともう効いてきた。7時47分に1回目のトイレ。やわらかめだがまだ形のある便が出る。

3杯目、4杯目で計800ml。そこで8時10分に2回目のトイレ。形がなくなってきた。5杯目、6杯目で1200ml飲んだ。8時20分、3回目のトイレ。よし形はもうない。レモン色だがまだカスが残る。もう100ml飲んだところで飲むのが嫌になってきた。あと500mlだ。そこで8時28分4回目のトイレ、5回目と立て続け。

外来のナースがやって来た。ここで6回目のトイレ内容を検査室内にあるトイレで見ってもらう。レモン色でカスはない。これなら検査OKと言ってくれる。

病棟へ上がり、昨夜変わりがなかったかを夜勤のナースに尋ねる。心配するようなことはないとのこと。

ここで「先生、きょうの検査、見学してもいいですか？」と3人のナースに尋ねられる。

「きのうまでは前売り券で安かったんだけど、きょうの当日券はちょっと高いよ」

「えー！残念！」

そんな冗談を言いながらも、緊張は高まり、早く終わりたい一心。消化器外科医の部屋をのぞくがまだ来ていない。彼はきょうは遅出当番なので、出勤は9時を過ぎるだろう。気を紛らすために自分の部屋でPCを開いてメールを確認。高校時代のクラスメートから今日もメールが来ておりうれしい。すると消化器外科医の声が聞こえた。

「先生！」

「あー！」

「もう準備万端です」

「ああそう、じゃあすぐやろうか」

「お願いします」

検査室へ入り、お尻穴あきパンツに履き替える。上も楽な格好にしようと下着1枚になりベッドに横になる。9時18分。

「麻酔はいいかな？」

「ええ、前は4年前ですが、大丈夫でした」

「じゃあ、痛いようなら途中で考えましょう」

ところがはじまって5分。S状結腸を上げていくときだと思うが、かなり痛い顔をしていたようで、ナースに点滴をとるように外科医は指示。今まではこんなことはなかった。腸が過敏になっている。

ところが外来ナースは医者であるわたしに針を刺すので緊張しており、手が震えている。まわりみんなにかなりのストレスを加えていて、まことに申し訳ないと思う。しかし、そこはベテランナース。きちんと点滴を確保。ここで、外科医は静脈麻酔剤3cc！の指示。数秒後に意識を失くした。

気がつくとすべて終わっていた。大腸がんはなかった。大腸憩室があった。以前よりも増えているようだ。バウヒン弁の近くの憩室の炎症が何度も起こり、壁が厚くなったものと思われた。今まで、数年に1度程度、右下腹や左下腹が痛かったのは憩室炎だったと思う。右下のときは虫垂炎かといつも心配したが、すべては憩室のせいだったのだろう。

消化器外科医が画像を見せながら親切に説明してくれた。9時50分。

今回は最初から点滴をとり、胃と大腸の両方を眠らせてもらってやろうと思う。

すっきりした。気分上々。きのうまでとは雲泥の差。気分もハイになり、早めのランチを11時45分からおいしくいただき、午後は仕事ものりのりだった。ナースにも患者さんにもかなりよくしゃべった。とにかくうれしかった。

大腸内視鏡検査は1,550点。15,500円の3割で4,650円。

クリアスルー3食セットは1,200円で保険は効かない。

健診はときどきやって、どうもなければ自信ができてよいし、何か異常が見つければ気をつけるようになるからそれもよい。うまく健診を活用していきたいと思う。

=====

▼こちらから「Salud!えひめ」のバックナンバーをご覧ください。

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/cat130>

Salud（サルー）とはスペイン語で「健康」「乾杯」を意味する言葉です
同僚や友人ご家族に「Salud!えひめ」をぜひご紹介ください。

全国健康保険協会（協会けんぽ）愛媛支部

〒790-8546 松山市千舟町4-6-3 アヴァンサ千舟 1階

TEL 089-947-2100（代表）

ホームページ <http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/>

▼配信停止を希望される方はこちらから

https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_1/index.do

▼登録情報を変更されたい方はこちらから

https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_2/index.do

※現時点の登録情報が記載されていますので上書き入力にて変更してください。